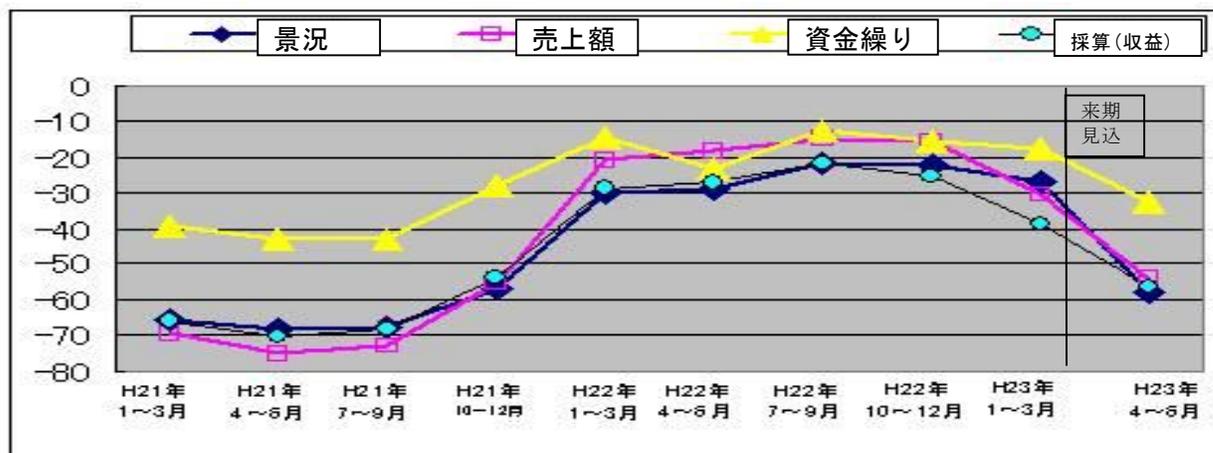


# 岡崎市内景況調査結果 (平成23年1～3月期分)

○岡崎市内の今期(平成23年1～3月)の景況判断DIは、△27.1ポイントとなり、これまで回復傾向にあったが、5.0ポイント減となった。

○来期(平成23年4～6月)の先行き見通しについては、景況が△58.3で、31.2ポイント悪化。全ての項目で悪化しており、震災の影響による、生産活動の縮小や原料の高騰、部品調達困難など、先行き見通しが立たず、景況が悪化すると予想する企業が多い。



- 調査対象 (1)対象企業数 本所各部会役員・幹事事業所 468企業  
(2)回答企業数 有効回答 173企業(回答率36.9%)

## 2. 調査対象時期(平成23年1～3月期)

- 前年同期(平成22年1～3月)と比べた今期の状況
- 今期と比べた来期(平成23年4～6月)の先行き見通し

3. 調査時点 平成23年4月6日～平成23年4月13日

4. 調査方法 ファクシミリによるアンケート方式

## 5. 有効回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比
製造業	65	37.6%
建設業	28	16.2%
小売・卸売業	45	26.0%
サービス業	35	20.2%
合計	173	100.0%

## 6 その他

本報告書中のDIとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」(上昇、好転)した企業割合から、「減少」(低下、悪化)した企業割合を差し引いた値である。例えば、売上額で「増加」30%、「不変」50%、「減少」20%の場合のDIは、 $30 - 20 = 10$ となる。

また変化幅は、「景況」、「売上額」、「資金繰り」、「採算(収益)」のプラス幅が増加し「↑」であれば企業経営にとって良好になっていることを意味する。一方「原材料仕入価格」、「製品在庫」では、変化幅が「↑」であれば、「増加」が増えていることから、企業経営にとっては悪化したことを意味する。

## ■市内の景況全体の概要

- 岡崎市内の今期(平成23年1~3月)の景況判断DIは、△27.1ポイントとなり、これまで回復傾向にあったが、5.0ポイント減となった。
- 業種別に見ると景況感は、建設業のみプラス幅が増えたが、その他の業種はすべてマイナス幅が増加し景況感が悪化した。震災の影響は直接なかったものの、生産の遅れなどによる工場の操業停止ならびに商品不足による売上減少、買い控えなどの消費活動の抑制が働いたためと予想される。
- 来期(平成23年4~6月)の先行き見通しについては、景況が△58.3で、31.2ポイント悪化。全ての項目で悪化しており、震災の影響による、生産活動の縮小や原料の高騰、部品調達困難など、先行き見通しがたらず、景況が悪化すると予想する企業が多いと考えられる。

### 【データ：全業種】

	前年同期比(前期) (H22.10-12月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H23.1-3月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H23.4-6月期)
景況	△22.1	↓5.0	△27.1	↓31.2	△58.3
売上額	△15.9	↓14.7	△30.6	↓23.7	△54.3
資金繰り	△15.9	↓1.4	△17.3	↓15.6	△32.9
採算(収益)	△25.5	↓13.2	△38.7	↓17.9	△56.6

※売上額は、建設業では完成工事(請負工事)額

## ■業種別の概要

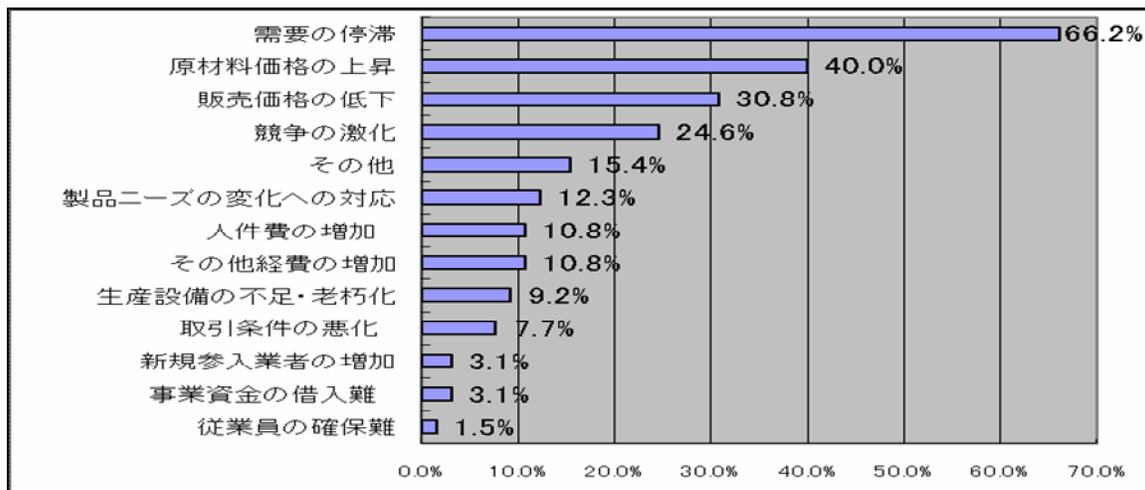
### (1) 製造業

- 景況は△17.0で、前期と比べて変化がなかった。
- 来期の景況は△63.0(46ポイント悪化)。震災の影響によって、直接被害のあった企業は少なかったが、原料の高騰、部品供給の困難などによる生産活動の縮小で、回復見通しが立たず、来期の見通しは悪化を予想する企業が多いとみられる。

### 【データ：製造業】

	前年同期比(今期) (H22.10-12月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H23.1-3月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H23.4-6月期)
景況	△17.0	0	△17.0	↓46.0	△63.0
売上額	△2.0	↓17.0	△19.0	↓30.0	△59.0
原材料仕入価格	37.3	↑0.2	37.5	↑18.8	56.3
製品在庫	△6.0	↑6.0	0	↓13.0	△13.0
資金繰り	△5.0	↓5.0	△10.0	↓26.0	△36.0
採算(収益)	△17.0	↓3.0	△20.0	↓39.0	△59.0

【経営上の問題点】※複数回答



- ※その他：
- ・震災による生産調整のため売上の減少
  - ・震災による生産停止の可能性大
  - ・東日本大震災の影響
  - ・震災関連の今後の影響
  - ・震災による生産及び売上の減少
  - ・急激な生産調整、国内外の経済の落ち込みにより見通し、予測が立てづらい

【主な事業者の声—直面する経営課題・業界動向—】

- ・東海地方にあるポンプメーカーが生産不能のためポンプを他社に取られるなど保留、中止が多く、受注も少なくなってきた。
- ・震災による売上減少がどこまで続くのか先行きが分からず長期間の収益悪化が懸念される。
- ・東北関東大震災における被害は、紙・インクメーカーはじめ流通にも相当なもので除々に我々にも感じるようになってきました。特に紙などにも荷不足等が出始めました。その上生産体制及び供給体制の見直しや調整など行われることが予想され、安定供給までにはかなり日数がかかるかと思われます。
- ・原材料(糸およびゴム系、ミシン系)の相次ぐ値上げ攻勢にて、価格転嫁がかなりきびしい現状です。
- ・大震災の影響で建築用の資材が不足し、頓挫する物件が続出すると思われる。数少ない物件をいかに受注に結びつけるかが弊社の課題である。
- ・4月以降東日本大震災の影響が出てくる。3月末で出始めている。
- ・自動車産業はじめ大手メーカーの生産停止が長期化すると、弊社含めどこの中小企業も資金繰り、ひいては経営が立ち行かなくなる、と本当に危機感を抱きます。政府には、緊急のつなぎ融資等の支援策を要望したいです。
- ・需要停滞でありながら生産量が追いつかず、在庫は減ったが、供給不足なり、売上が減少している。
- ・震災による原材料確保が続くと思われる。
- ・お客様が生産を海外に移行する物が多くなった。
- ・震災の影響で先行き不透明な状況です。原材料、包装材の確保など。
- ・東北地震で製紙メーカーが流され用紙不足です。
- ・中途採用を実施しているが、思うように人材が確保出来ない。
- ・原材料(鋼材)がまた値上がりするので何とかしてほしい。
- ・東日本大震災の影響が非常に懸念されます。

## (2) 建設業

○景況DIは△35.7。前期(△54.1)に引き続き、18.4ポイント改善した。

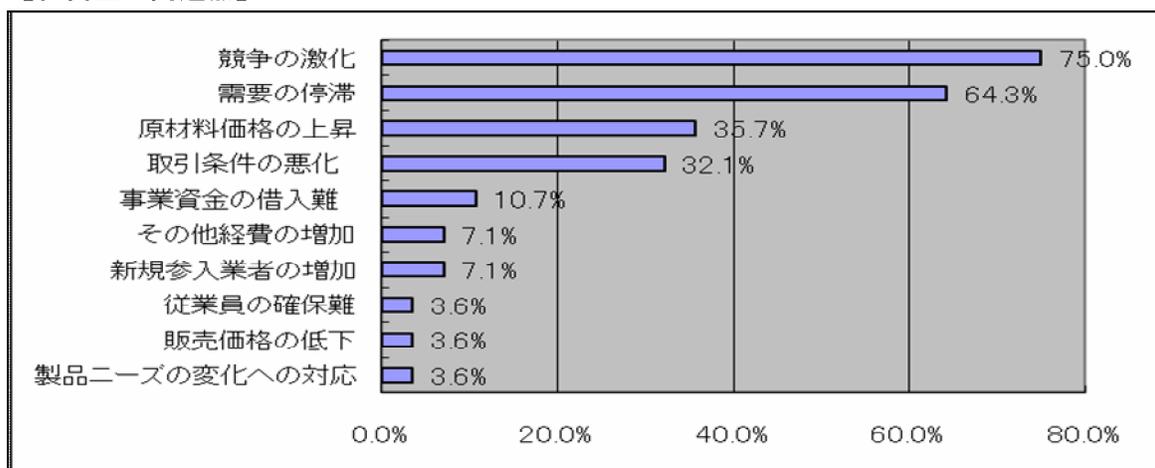
他業種はすべてマイナス幅を広げているが、唯一プラスポイントになったが、資材仕入価格が大きく上昇しており、採算の改善にはつながらなかった。

○来期の景況は、△67.9(32.2ポイント悪化)。震災の影響による、材料入手困難などで、全ての項目で減少・悪化すると予想している。

### 【データ：建設業】※複数回答

	前年同期比(今期) (H22.10-12月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H23.1-3月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H23.4-6月期)
景況	△54.1	↑18.4	△35.7	↓32.2	△67.9
完成工事額	△55.6	↑16.3	△39.3	↓28.6	△67.9
受注額(新規契約)	△38.9	↑3.2	△35.7	↓35.7	△71.4
資材仕入価格	16.2	↑30.2	46.4	↑32.1	78.5
資金繰り	△35.1	↑10.1	△25.0	↓35.7	△60.7
採算(収益)	△56.8	↓3.9	△60.7	↓10.7	△71.4

### 【経営上の問題点】



### 【主な事業者の声—直面する経営課題・業界動向—】

- ・震災の影響で材料の入荷が困難になったとビニール類、テープ類が手に入らなくなった。
- ・不透明な景況感です。
- ・東日本大震災で資材入手困難になっている。

### (3)小売・卸売業

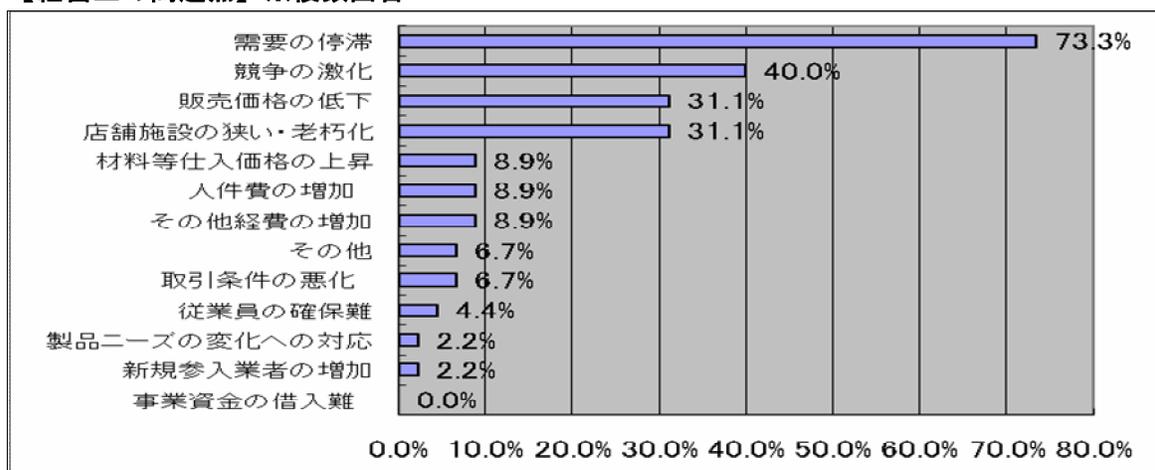
○景況は△24.4。前期(△14.6)に比べて9.8ポイント悪化。震災の影響で商品不足による売上減少や仕入価格の上昇から収益減となっている。

○来期の景況は、△53.5(33.1ポイント悪化)。震災の影響で商品確保、消費者の購買意欲などの見通しが立たず、さらに悪化を予想するとみている。

#### 【データ：小売・卸売業】

	前年同期比(今期) (H22.10-12月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H23.1-3月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H23.4-6月期)
景況	△14.6	↓9.8	△24.4	↓33.1	△53.5
売上額	△14.3	↓14.6	△28.9	↓21.1	△50.0
商品仕入価格	11.9	↑25.8	37.7	↑8.8	46.5
商品在庫	△23.8	↓0.6	△24.4	↑3.5	△27.9
資金繰り	△12.2	↓5.6	△17.8	↓0.8	△18.6
採算(収益)	△22.0	↓11.3	△33.3	↓24.8	△58.1

#### 【経営上の問題点】※複数回答



※・東日本大震災の影響で、製品納期(発注停止)=サプライチェーンの破綻、計画停電  
・震災により商品未入荷による売上減

#### 【主な事業者の声—直面する経営課題・業界動向—】

- ・震災の影響で商品不足で販売できないため売上の確保が難しい
- ・他業種業者の参入による低価格競争及びデジタル化による品質の低下。同業者の老齢化等、悪条件が算積のため、かなり苦しい状況にある業界である。
- ・中東情勢の不安、震災不景気、電力の火力へのシフト等により石油の需給バランスが狂うのではないかと懸念。
- ・震災による得意先、住宅未着工による売上減により、見通したたず。
- ・品薄
- ・震災の影響による自動車部品メーカーの操業率低下が4-9月の収支を大きく悪化させる
- ・好転しかけた経営も、震災以降、購買意欲の低下、DM・ハガキ等の告知に対して顧客の反応がない。購入者も自制した方がよいのではとの意見もあった。
- ・今後の入荷と需要の低下が心配

## (4) サービス業

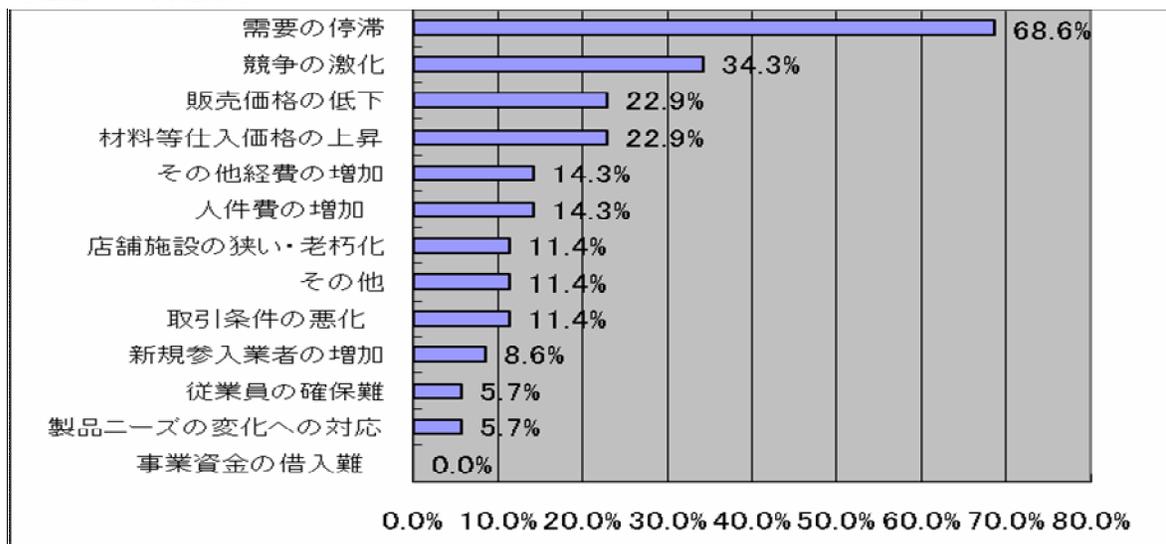
○景況は△42.9。前期(△7.9)に比べ、35.0ポイント悪化。震災の影響による自粛ムードやイベント中止など間接的な影響により、売上、利用客、資金繰り、採算が全て悪化した。

○来期の景況は、△54.3(11.4ポイント悪化)。売上が改善していることから、自粛ムードは一時的な影響とみているが、収益は悪化を予想していることから、本格的な需要の回復にはまだ時間がかかると予想していると考えられる。

### 【データ：サービス業】※複数回答

	前年同期比(今期) (H22.10-12月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H23.1-3月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H23.4-6月期)
景況	△7.9	↓35.0	△42.9	↓11.4	△54.3
売上額	△2.6	↓46.0	△48.6	↑2.9	△45.7
利用客数	△2.6	↓35.6	△38.2	↓5.9	△44.1
資金繰り	△18.9	↓12.5	△31.4	↑2.8	△28.6
採算(収益)	△13.2	↓23.9	△37.1	↓8.6	△45.7

### 【経営上の問題点】



その他：・東日本大震災の影響

- ・震災による間接的被害による売上減
- ・震災の影響による自粛ムード
- ・震災による旅行の中止、外国人の待機、イベントの中止

### 【主な事業者の声—直面する経営課題・業界動向—】

- ・震災による間接的な要因による需要減
- ・前期と同じく需要の停滞と競争の激化、非常に厳しい
- ・震災により、すべてに控えムードの影響
- ・東京の計画停電により業務に支障が出ましたが今は大分回復してきました